教員おすすめ図書コーナー推薦書

教　員　氏　名 谷川　卓　先生	おすすめメッセージ
①　図書名：『言葉の展望台』 著　者：三木那由他 出版社：講談社　　ISBN：9784065283455	本書は、哲学者による、言葉に関わる話題を中心としたエッセイです。私たちが言葉を使ってコミュニケーションをとったとき何が起こっているのかが描かれている、というのが大まかな紹介となるでしょう。言語哲学という哲学の一分野の成果が参照されているあたり、哲学者が書いたエッセイという感じがします。そのため言語哲学の入門書として読むこともできますが、本書で注目するべきは、それよりも、著者がコミュニケーションとは何かという問いを自身にとって重要な問題として受け止めているところにあるでしょう。哲学者としての視点と、哲学とはいったん離れた視点とが織り合わせられながら、話が展開されていきます。
②　図書名：『世界最先端の研究が教える　すごい哲学』 著　者：稲岡大志・森功次・長門裕介・朱喜哲（編） 出版社：総合法令出版　　ISBN：9784862808813	タイトルは人を遠ざけかねないところがありますが、よい本です。 他の学問と同様、哲学においても、日々、さまざまな研究論文が出版されています。本書は、そうした研究論文の内容をいろいろな問いに答える形で紹介しています。哲学の問いといっても、そう堅苦しいものではありません。たとえば「サステナブルなファッションを選ぶにはどうしたらいいか？」「悪口はどうして悪いのか」といった問いが取り上げられています。編者の一人である稲岡大志によれば「この本で哲学に対するイメージが変わるでしょう。そして、その新しい哲学のイメージこそがいまの哲学の姿なのです」（「まえがき」より）
③　図書名：『オックスフォード哲学者奇行』 著　者：児玉聡 出版社：明石書店　　ISBN：9784750354811	オックスフォード大学に在籍したさまざまな哲学者たちのエピソードが紹介されています。取り上げられているのは哲学の研究者のあいだではよく知られている有名な哲学者たちですが、一般に知られているとは言えないでしょう。アンスコムやパーフィットという名前なんて聞いたことがない、というひとが多いと思います。しかし紹介されているエピソードのなかには強烈なものもあり、それなりに楽しめるのではないかと思います。